

生産体制・技術確立支援に関する事業評価票

事業実施 主体名	新品種・新技術等 の内容	事業実施 初年度	成果目標の 具体的な内容	成果目標の達成状況		具体的な取組内容	地方農政局長等からの意見
				基準年 (計画策定時) 令和4年	目標年 令和6年		
愛知県	土壌水分の見える化による キク類の生産性向上	令和4年度	キクのかん水管理改善による 立枯れ症状の軽減のため、かん 水管理指標及びモデルを作成し、技術導入を行う。	導入面積0ha 立ち枯れ症状の多発	技術導入による立枯れ症状の 改善面積5.15ha	<ul style="list-style-type: none"> ・環境モニタリングを利用した土壌水分データ 取得とかん水管理との関係性の把握 ・実証試験の実施・実証試験結果の取りまとめ ・産地・実需者との情報交換会の開催 ・かん水管理指標及びモデルの作成 ・普及に関するパンフレットの作成 	かん水管理指標及びモデルが作成され、技術導入により5.15haで立枯れ 症状の改善が図られたため、成果目標を達成している。
愛知県	アブシシン酸の果房散布に よるブドウの着色向上と低 コスト環境測定装置による ブドウ栽培の見える化	令和4年度	アブシシン酸の果房散布によ るブドウの着色向上技術につ いて、センシングによる散布 時期の最適化を図り、手引き を作成し、技術導入を行う。	導入面積0ha	導入面積2.8ha 技術が導入され、巨峰、ピ オーネを中心とした黒系品種 の着色が改善された。	<ul style="list-style-type: none"> ・ABA液剤の果房散布方法及び時期の検討 ・実証試験の実施、実証試験結果のとりまとめ ・ABA液剤利用手引き作成に向けた意見交換会 ・安価なマイコンによる土壌水分、温湿度、重 量センサーのモニタリング ・産地、実需者との情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用手引きが作成され、2.8haで技術が導入され、巨峰、ピオーネを 中心とした黒系品種の着色が改善されたため、成果目標を達成してい る。 ・年々進行する温暖化により昼夜の気温差が少ない愛知県ではブドウの 着色不良が課題となっている。 ・アブシシン酸の果房散布の実証試験より、高温下での着色向上が優 れ、収穫期分散も期待できることから、R6には2.8ha導入された。 ・導入面積はアブシシン酸（商品名：アブサップ液剤）の販売実績から 算出した。 ・各普及課が普及課題および調査研究に位置付けて実証試験を行い、各 産地への普及を図った。 ・着色向上効果は実証されたが、作業工程が増えるため、今後も検討し ていく。 →散布のタイミング（着色始期）に合わせて袋を外し、処理後に再 掛けする必要があり、作業性に課題が残る。 ・本事業において、黒系ブドウにおける十分な着色向上効果が確認され たが、赤系ブドウにおける事例数が不十分であり、各普及課が農研機構 育成のクイーンニーナ等の効果の確認を行っている。 ・導入面積が増えることでの検討課題として、糖度に対する注意喚起。 →色付きが先行しやすく、糖度が十分でないうちに収穫されるリス クがあるため、早出し出荷には注意が必要。各産地で収穫適期判断の徹 底を図っている。
三重県	イチゴ栽培の主要病害虫で あるうどんこ病、スリップ ス類に対応したIPM技術 導入による生産向上	令和4年度	成果目標において、産地・ 実需者ニーズを反映した、既 存防除技術にうどんこ病に対 応した紫外線照射の新技术(物 理的防除)を取り入れたIPM技 術、スリップス類に対応した 天敵利用の新技术(天敵防除) を取り入れたIPM技術、天敵利 用と高濃度炭酸ガス殺虫法を 組み合わせたIPM技術を確立 し、産地に導入する。	紫外線照射（UV-Bライ ト）による物理的防除新規導入 農家数 0戸 スリップス類に対する天敵 利用（天敵防除）農家数 15戸	紫外線照射（UV-Bライ ト）による物理的防除新規導入 農家数 5戸 スリップス類に対する天敵新 規利用（天敵防除）農家数 11戸	<ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病対策として令和4年作と令和5年 作の育苗期に紫外線照射（UV-Bライト）を行 い、育苗株における防除効果を検証（1か所） ・スリップス類対策として、令和4年作の生育 期・収穫期における天敵利用による防除効果を 実証（9か所）。 ・前述の技術と他病害虫（灰色かび病、ハダニ 類）防除に係る既存技術を組み合わせたIPM 技術の導入効果を確認することで、生産の安定 化に向けた検討を実施 	うどんこ病及びスリップス類に対応した防除体系として手引書が作成さ れ、県内主要産地において、紫外線照射（UV-Bライト）による物理 的防除が5戸、スリップス類に対する天敵利用（天敵防除）が11戸で新 たに導入されたことから、成果目標を達成している。